【実施区域・面積】

宮城県、30.55ha

【生態系タイプ】

森林（二次林（コナラ林））

【実施区域の状況】

実施区域は、宮城県の県有林であり、「里山環境学習林」に位置付けられる大和町七ツ森の県有林（138ha）の一部である（北西側約6.42ha、南東側約24.1haの飛び地）。また、実施区域は全域が県指定宮床鳥獣保護区内に該当する。放棄されて長期間が経過しているため、アズマネザサの繁茂によりコナラ林の生態系の質が低下している。

【目標】

将来的にはモミ林への移行を目標とし、アズマネザサの藪や灌木除去等により本来の明るく風とおしの良いコナラ林生態系の回復を目指す。

【主な活動内容】

地域の森林組合と協働し、5年間は過剰に繁茂したアズマネザサや灌木の藪の除去を行う。その後は、モニタリング結果を踏まえ、順応的管理（結果を鑑みた刈り取り追加、灌木間引き、亜高木候補保護、つる植物除去等を想定）を行う。

【モニタリング計画】

2025年度、2027年度、2030年度、2032年度に植物調査（コドラート調査）及び哺乳類調査（任意踏査、センサーカメラ調査）を実施予定

【実施体制】

実施主体：宮城大郷ソーラーパーク合同会社（構成員：TotalEnergies Renewables、東北電力、ユーラスエナジー）、 土地所有者（県有林）：宮城県、森林施業：黒川森林組合、サポート：宮城県森林インストラクター協会、モニタリング：株式会社エコリス、専門家：山形大学 横山潤教授、全体管理等：イー・アール・エム日本株式会社



2022年3月撮影

赤枠：協定範囲
空中写真：2024年6月ドローン撮影



2022年11月撮影



2022年3月撮影





【計画期間】

2026年3月～2031年3月